

第三回居宅介護支援部会 避難行動要支援者制度について グループワーク記録

<A グループ>

- ・在介と協力し、福祉避難所としても現状を把握する必要あり。
- ・避難所の場所、利用者のトリアージ実施。
- ・安否確認の優先度、医療依存度、認知度、電気を使用する福祉用具の表を作成。
- ・各個別ファイルに安心カード作成、避難所の場所確認。
→事業所内で共有、駆け付けた人が見れるようにする。
- ・情報の管理方法を気にされる人はいる。
- ・情報開示ルールがないと同意も得られないのではないか。
- ・いざ災害時に作成した台帳を活用できるのか。
- ・土地柄の問題もある。
- ・市街の人ほど隣の人が誰か分からない。
- ・まず個人の安全が第一になってくる。
- ・保々地区→資源がないため土地柄緊急時の対応困る。
- ・本人の同意を得ること＝個人情報扱いが難しいので拒否、嫌がることもある。

<B グループ>

- ・契約時、避難所、誰と避難するかの確認をする。
- ・連絡先①～③まで聞く。
- ・担当者会議の時に避難確認してチェックシートを共有して良いかの確認をするようにしたい。
- ・紙媒体でまとめている。
- ・発電機を購入した。
- ・CMにつながっていない人の名簿を作成中である。
- ・名簿作成。個々の担当の利用者を更新する。連絡先の変更。
- ・CM担当している人の紙で保存、地区ごとに保存する。
- ・優先順位をつけている、月一回更新。
- ・突合訓練をしている。
- ・ガソリン半分補充、携帯補充。
- ・チームズにて安否情報を集約するように職員に周知する。
- ・県立医療センターが拠点になる。
- ・病院同士で連携してほしい（透析の人）。
- ・同意得られたら、要介護3以上の方は作らないといけないと思っている。
- ・避難生活イメージできるか。何が必要か。

<C グループ>

- ・災害時の対応（ハード面、ソフト面）を含め居宅につなぐ際にケアマネに伝える。
- ・避難場所を再度確認、サロンの備蓄を確認、自治会長と連携。
- ・生活シートの一部に災害時の情報を記入。
- ・ケアマネにつないだ後情報が分からない→要介護3以上何人か？
- ・要介護3以上は移動手段→在介と言うよりも居宅。
- ・地域では介護の担い手が居ない。
- ・独居の方→紙に情報を記入し家庭に置く。
- ・アセスメント時災害時の対応について、本人・家族に意向を聞く。
- ・認知、介護力のうすい家庭の方は予測できる。

<D グループ>

- ・市から案内が来ていて、どうしたらいいのかと利用者から尋ねられ始めている。
- ・どこに提供され、活用されるか。
- ・自身も含めて自分の地域の住民と話している。
- ・ケアマネに関係あると結びついていない。
- ・避難する場所・方法の確認
- ・大雨（9月）の時床下まで水が来て垂直避難
- ・計画はシンプルに。細かすぎても活かさない
- ・計画のみでなく福祉避難所とのリンク、受け入れ等の活用方法、運用の流れ、管理方法等CMが利用者に説明できるように。有事に活用できるように。
- ・在宅で要介護3・4・5の人数的には？
- ・発生初期、1ヶ月、3ヶ月、何が必要かイメージして。

<E グループ>

- ・ダンボールベッドが必要。ADL、食事情報など。
- ・データ（パソコン）、紙ベースで必要ではないか。
- ・対象者をどのように広げるのか？
- ・避難の状況。
- ・衛生面で物品が必要（サランラップ、トイレ等）、備品の確認。
- ・福祉避難所への避難。
- ・第一は自分の身を守る。
- ・直後の対応→垂直移動、食事、温度の管理。
- ・初動できるか、ルート確認
- ・施設間での連携、何人まで受け入れられるのか。
- ・避難生活で必要なもの。
- ・初期、1ヶ月以内、1ヶ月後

<F グループ>

- ・実際に行った時の不安は大きい。事業所としては、準備はしている。
- ・利用者とは実際に相談したことはない。
- ・利用者と避難所・連絡先を確認する。
- ・重度の方の担当者会議の際にヘルパー等と避難するかを確認する。
- ・認知症の人の対応は難しい。
- ・緊急連絡先等の情報。
- ・民生委員等との連携は必要と考えるがまだ共有できていない。
- ・安心カードを作成。
- ・民家の耐震状況等を情報として共有
- ・定期的に避難所の場所を確認。